

青葉の詩

あおほのうた
第16号

菊陽町立菊陽南小学校
校長 渡邊浩文

優良PTA文部科学大臣表彰！

鼻ぐり井手祭！お祭り騒ぎ！？

いやいや、着実な取組の成果の現れです！

表彰式に行ってきました！

十一月十七日（金）東京のホテルニューオータニでの表彰式に、鍋島二郎PTA会長と私二人で出席してきました。会場は「鶴西の間」。変わった名前の会場名だなあ

と思いつながら入った大広間は、ほんと「おお広い、まあー」でした。およ千人の座席が整然と並んでいる様は、ちょっと壮観。そして右手の壁には、大きな鶴の壁画。左手は…何もない。いや、この壁

はしきりの壁！？あとでわかったことですが、この壁の向こうが「鶴東の間」。しきりを取っ払ってできるのが、「鶴の間」なのです。一体何人収容できるのか？まずは、広さに圧倒されてしまいました。

表彰式は、優良PTA百三十二団体、会長表彰百二十四団体、個人表彰二百三十五人、PTA新聞表彰四十四団体。北は北海道から



南は九州沖縄まで、表彰を受けた学校の代表が一堂に会していました。余りの多さに、一人一人に表彰状を手渡されることはありせん。およそ二時間にわたる表彰式の終了後、改めて会長が表彰状を受け取られました。結構大きな表彰状で、「文部科学省」の文字と「紋章」のすかしが入っています。どっかで見た紋章

南は九州沖縄まで、表彰を受けた学校の代表が一堂に

だなおと調べてみると、日本の首相などの記者会見の演台に付いているものと同じ！日本政府の紋章でした。表彰者は「文部科学大臣林芳正」ですから、日本政府の「五七桐（ごしちのきり）」なんだなと、納得しました。



表彰式に出席して、改めて、本校PTAの活動が高く評価されたことをうれしく思いました。保護者及び地域の皆さんの

これまでの活動の有り難さをひしと感じました。この表彰を励みに、さらにPTA活動が充実していくよう力を合わせていきたいと思ひます。

鼻ぐり井手祭

十一月十九日（日）、天気はよかったものの、ちょっと風が強かった日、鼻ぐり井手祭が行われました。鍋島PTA会長と私は、前日に帰郷。東京の香り（？）と一緒に、早朝からの実行委員会に出席。今年の祭りでは、子どもたちの出番を午前中にまとめていただきました。おかげで、子どもたちも大変参加しやすく、午後からはゆつくり楽しめるものとなったのではないのでしょうか。

校長ナベちゃんのみちのくひとり旅日記 その6

なんとか全員を捜し出し、それぞれのプレイを見て声をかける。男子プロも一緒に回っているグループもあるが、どのグループも緊張が見て取れる。全国大会だし、一緒にプレイしている子はいささき会ったばかりだし…、こんな状況で、小学生に緊張するなという方が無理である。

それぞれ精一杯のプレイをして、いい思い出になってくれればと思った。いい機会であることは間違いない。ゴルフの道に進むもよし、福島のことを覚えてくれるもよし、日本の広さを感じるもよし。これを機に、いろんな事に目を向けてほしい。

そんなことを考えながら、なんとか全員のプレイを確認した。最後の結果まで見届けたいものだが、私にはまだまだ旅の続きがある。あとのことは、西村教諭や保護者の皆様に託して、さらに北を目指して新幹線に飛び乗るのだった。

大会の詳しい様子は、衛星放送BS12で9月28日に放映された。DVD化して学校に残す予定である。

会場を後にした私は、東北新幹線「なす257号」で新白河から郡山まで行き、そこから12時57分発の「やまびこ49号」に乗り。一番の端っこの車両（自由席）に乗り込んだら、なんとお客は私一人。貸し切り状態であった。ちょっとのびのびできたところで、遅めの昼食。時間がなく駅のホームのキオスクで買った、パンとコーヒー。粗食であったが、貸し切りの新幹線の座席で食べると、とても幸せな気分になることができた。

14時41分、約2時間で岩手県新花巻に到着した。ここから、JR東日本釜石線に乗り換え、今日の目的地岩手県釜石市を目指す。

釜石線の愛称は、銀河ドリームライン釜石線。これは、釜石線の前身の岩手軽便鉄道が、宮沢賢治の「銀河鉄道の夜」のモデルと考えられていることにちなんでいるからである。だから、花巻から釜石までの全24駅に、宮沢賢治が、作品でよく使っていたエスプラント語による愛称が、付けてある。私が降り立った新花巻はステラーロ〈星座〉、遠野駅はfolkクロロ〈民話〉、釜石駅はラ・オツェアーノ〈大洋〉という具合だ。

感心しながら地図を眺めていると、宮守川橋梁という鉄道橋が目にとまる。これもまた「銀河鉄道の夜」のモチーフとなった5つのアーチが連なる眼鏡橋だ。通潤橋のアーチを少し小さくして、5つ並べたような大きさ。その上を、列車が走っていくのだ。写真で見るととてもきれいである。これは見逃せないと車窓から見ていた。通過した。だがよく見えない。そりゃそうである。橋の上からだ、どんなに頑張っても、橋全体は見えないのだ…。教訓、橋の姿を見るには、下から見上げるのが一番いい！

もう少しで釜石に着くというところで、ここでシカできない体験をすることになる…（続く…完結目標、年内！）

「子どもボランティアガイド」一・二年生はよく食べよく遊び、会場を盛り上げてくれました。大活躍のみなみっ子に、地域の方々も実行委員会の面々も大変喜んでおられました。地域を盛り上げ、子どもたちに活躍の場をくれるこの祭りを、いつまでも大切にしていきたいものです。